静岡県教育長賞

かっこよかったお姉さん

浜松市立豊岡小学校　三年
野沢　明生

ぼくは、お姉ちゃんといっしょにスイミングスクールに通っています。いつもは、お母さんがおくりむかえをしてくれるのですが、

「今日は遠鉄バスにのって帰っておいで。」

と、ナイスパスをわたされました。しかも、お姉ちゃんが、かぜをひいていたので、一人でバスにのる事になってしまいました。

スクールが終わり、バスていにむかいました。いつもはお姉ちゃんにたよっていましたが、

（今日は一人だからしっかりしなければ。）

と思いながら行きました。

バスていに着いて、バスを待っていた時の事です。手でナイスパスをふりまわして遊んでいたら、ナイスパスをそっこうのあなに落としてしまいました。そっこうにはほとんど水がなくてよかったのですが、

「どうしよう、どうしよう。」

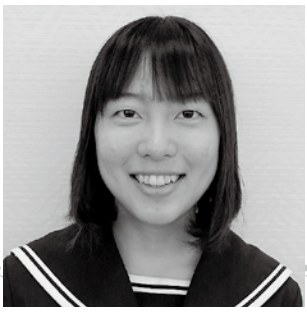
と小さい声で言ってたら、そのバスていで、いっしょに待っていた知らないお姉さんが、
「どうしたの。」
と声をかけてくれました。夕方でうす暗くて見えにくかったので、お姉さんは、かい中電とうを自分のカバンから出して、いっしょにさがしてくれました。さがしている間に、のるはずだったバスが行ってしまいました。すると、お姉さんは近くの自動車店に行って、お兄さんをよんできてくれました。お兄さんは、工具を出してきて、そっこうの重いふたをもちあげて、落ちたナイスパスをひろってくれました。お兄さんとお姉さんに、
「ありがとうございました。」
と、お礼を言うと、お兄さんは、
「良かったね。これで帰れるね。」
と、お店に帰って行きました。その後、お姉さんとは同じ行き先のバスにのりました。お姉さんに名前を聞いたけど、
「いいの。いいの。」
と、わらって答えてくれませんでした。その後、お姉さんは同じバスていでおり、
「じゃあね。」
と声をかけてくれました。ぼくはもう一回、
「ありがとうございました。」
と言ってわかれました。同じバスていでおりたから、近くの人だと思いますが、どこのだれなのか分かりません。
家に着いて、お母さんに話をすると、なかなか分かってもらえませんでしたが、
「親切な人に出会って良かったね。」
と言ってくれました。バスていでお姉さんに出会わなければ、帰る事ができなかったと思いました。
これからは、こまっている人を見かけたら、ぼくも声をかけ、できる事はしてあげようと思いました。そして、名前を言わずにさって行くのがとてもかっこ良く見えたので、ぼくも親切ができた時には、名前を言わずに、さって行こうと思いました。

静岡県教育長賞

静岡県教育長賞

「いないいないばあ」で世界は繋がる

浜松市立雄踏中学校　三年
平田　栞菜



韓国との領土問題。アメリカとの貿易問題。国と国との間には、さまざまな問題がある。それらの問題がメディアを通して私たちへと伝えられ、私たちは情報の伝えられ方によって、その国の善し悪しを決める。一体それは、本当に正しい判断なのであろうか。

国と国との間には問題があって、たとえそれが分かり合えないことであったとしても、人と人の間には何の問題もない。だから私たち人と人とは国境を越えても、言語が違っても分かり合うことができる。そのことを修学旅行中の、ある出来事が教えてくれた。

修学旅行で京都に行ったときのことである。私たちの班とガイドさんは次の目的地に向かうため、公共のバスに乗っていた。途中でアメリカ人の赤ちゃんを連れた家族と席が隣になった。私たちは、外国の方と話してみたいと思っていたので声を掛けた。だが実際話してみると、かろうじて聞きとれるものはあったが、ほとんど理解することができなかった。だが、拙い英語

にジェスチャーを交え、私たちは会話を楽しんでいた。

そんなとき、急に赤ちゃんが泣き出してしまった。バスの中には私たち以外にも人がいたので、赤ちゃんの両親は「早く泣き止ませないと」と、とても焦っている様子だった。それでも大きな声で泣き続ける赤ちゃんに、両親ともうろたえ始めていた。

「いないいないばあ！」

突然の私の言動に赤ちゃんの両親は驚き、赤ちゃんは私が何をしているのか分からず、きょとんとしていた。しかし、私が顔を変化させながら何度もやっていると、遂に赤ちゃんが笑い始めたのだった。赤ちゃんのお母さんとお父さんに『いないいないばあ』の説明をすると、二人ともとても喜んでくれた。その後も会話を楽しみ、私たちはバスを降りて笑顔で別れた。こうして繋がることのできた喜びを、私はずっと忘れない。

国籍が違っても、言葉が伝わらなくても繋がることができた。それはきっと私たちが外国の方と触れ合いたい、文化を知りたいと思っていたのと同じように、相手の方も日本のことについて知りたい、日本の文化やおもてなしを体験したいと思ってくれていたからではないかと考える。だからこそ、相手の方が困っていたときに助けてあげたいと思ったのだろう。

お互いを理解しようとする心は国籍や言葉の壁を越え、分かり合うことができる。きっと、それは日本人ならだれもが持っているであろう、思いやりの心に繋がるのだと思う。だから、メディアからの情報だけで国やその国の人を決めつけるのではなく、もっと知ろうとしてほしい。そして私は伝えたい。誰もが持っていて、生活の中で誰もが経験したことのある、日本の思いやりの心を世界中へ。